

## ポーチュラカの冬越し

ポーチュラカは、スベリヒコ科の植物で、近縁種にマツバボタンがあります。葉や茎が多肉質なので、暑さや乾燥に強い特色があります。また、あまり立ち上がらず、這うように茎をのばすので、花壇の外周部に植えると縁の外まで広がっていきます。プランターでは、外側の縁を垂れさがって花を咲かせます。



茎の一部を10cmずつ切り出して、水に漬け、発根を確認してからポットに植え付けました。



12月中は元気いっぱいだったのですが、このまま春を迎えられると期待していましたが、2月の厳冬期に向かうと様子が変わってきました。立ち上がっていた茎が、植え付けたときのようになり、寝てきました。また、水やりし過ぎたのも原因かと思えます。結果的には、23ポットのうち8ポットの苗が枯れてしまいました。それでも初めての試行で約3分の2が残ったので、今回、購入した苗とともに花壇などに植え付けました。まだ小さな苗ですが、夏までには大きな株になるでしょう。

一株で大きく育ち、手間もかからないので、夏の花壇では欠かせない植物になっています。

原産地では冬越しするようですが、寒さには弱く、横浜の気候では屋内で育てないと冬越しできません。また、タネが採取できないので、毎年苗を購入していました。

そこで、昨年から冬越しを試行してみました。まず、夏に大きく育った株のままでは扱いにくいので、まずは、10月に挿し芽で苗を造りました。



ポットに植え付けたポーチュラカを屋内で冬越しさせます。

